

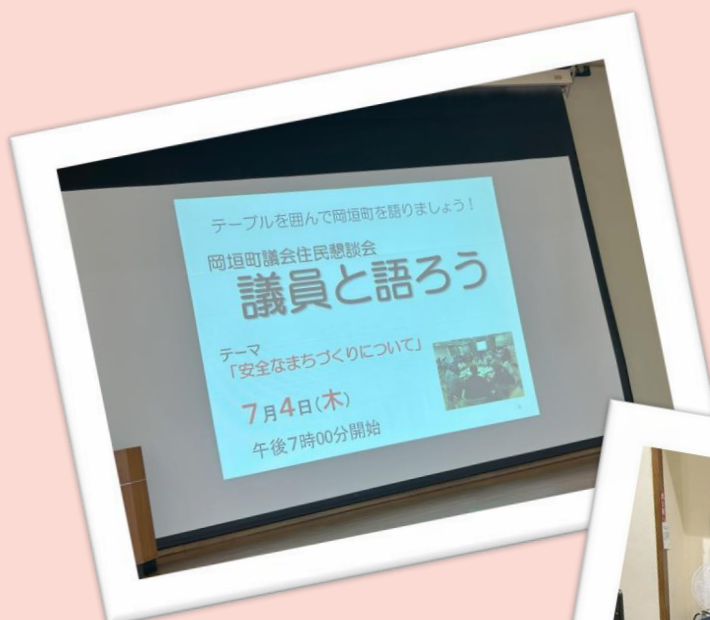
令和6年度岡垣町議会住民懇談会

「議員と語ろう」報告書

開催日：令和6年7月4日（木）

時 間：午後7時から午後9時

場 所：岡垣町中央公民館大会議室



岡垣町議会

議長あいさつ

●開会にあたって～議長あいさつ～●

皆さんこんばんは。岡垣町議会議長の森山です。

本日は、令和6年度岡垣町議会住民懇談会「議員と語ろう」にお越しいただきありがとうございます。

平素は、岡垣町議会に格別のご理解とご協力を賜っておりますことに、心からお礼を申し上げます。

テーブルを囲んでの意見交換は、今年度で4度目となります。議会では住民懇談会後に報告書を作成して、町長へ提出しています。これまで、「プールをつくってほしい」、「子育て支援を充実してほしい」という意見を頂いていましたが、ようやく実現する運びとなりました。

本日は、安心なまちづくりについて、皆さんと一緒に意見交換できることを楽しみにしているところです。



限られた時間ではありますが、皆さまにとって充実した時間となりますよう、議員一同、精一杯務めてまいりますので、活発な意見交換をよろしくお願い申し上げ、開会にあたりましてのご挨拶といたします。

本日は、お越しいただき、誠にありがとうございます。

令和6年7月4日

岡垣町議会議長 森山 浩二

開催概要

岡垣町議会では、町政に対する意見などを聞かせていただくために、平成20年度から議会住民懇談会を実施しています。平成30年度からは、テーブルを囲んだ意見交換「議員と語ろう」を開催しています。4回目となる今回の意見交換は、17人に参加いただきました。



リラックスした雰囲気を出すために、アイスブレイクとして、じゃんけん大会を2回行いました。

意見交換では、ワークショップKJ方式を取り入れ、参加者と議員が各テーブルに分かれてお茶を飲みながら和やかに話し合いました。

今年度は「安全なまちづくりについて」を大きなテーマに設け、防災・防犯・生活の3つに分け、住民の皆さんに好きなテーブルに座って頂きました。(防災3人、防犯4人、生活10人)

第1ラウンドでは「不安に思っていること」、第2ラウンドでは「解消するにはどうすればよいか」について会話を広げました。

ワークショップKJ法方式【意見交換】

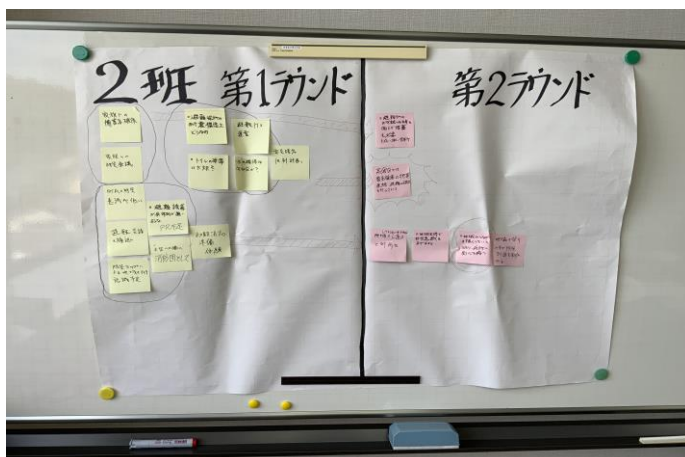
ワークショップとはKJ法方式とは・・・

ワークショップKJ法方式とは、アイデアや情報を可視化し、分析する手法です。

この方法は、個々の意見や考えを紙や付箋に書き出し、それらをグルーピングすることで、複雑なテーマや問題を体系的に整理します。特にブレインストーミングセッションで有効で、多様な意見を効率的に収集し、分析するのに役立ちます。

KJ法方式の名前は、この手法を開発した文化人類学者、川喜田二郎のイニシャルからきています。彼が1967年に出版した「発想法」でこの手法を紹介したことで、幅広く普及しました。組織やチームの中で、創造的なアイデアを生み出し、問題解決の手助けをするために、有効な場合があります。

この手法で、さまざまな価値観や違った環境を持つ人たちが集まる中でも意見交換がしやすいこと、思いのまま自由に発言できること、また多くのアイデアが創出されることを期待し、今回もワークショップKJ法方式で開催することにしました。



実際に使用した模造紙
似た意見をグループ分けすることで、わかりやすくなります。

意見交換の様子

「防災」「防犯」「生活」それぞれのグループに分かれて、自由に意見を出し合いました。



総合司会は平山委員長



グループに分かれてスタートです♪



各テーブルには、議員が
ホストとして入ります



分野ごとテーブルに分
かれています



お茶等をいただきながら
和やかに会話が進みます



第2ラウンドで解決策
を出し合います



活発な意見がたくさん
出て盛り上がります



最後は、各テーブルで
出た意見をまとめて発
表しました



三角副議長、お礼のこ
あいさつ

テーマ「安全なまちづくり」

皆さんから出された意見

第1ラウンド：不安に思っていること

防災

- ・家族での備品確保
- ・家族との防災会議
- ・町民の防災意識が低い
- ・避難経路の確認
- ・防災マップによる地域のリスク認識不足
- ・避難誘導が具体的でないような、PR 不足
- ・消防団として火災への備え
- ・初期消火の準備体験
- ・避難場所の耐震構造上どうなの
- ・避難所の運営
- ・トイレの準備は大丈夫？
- ・水の確保は何日分か？
- ・要支援者個別計画

まとめ

防災では、家庭の中での備品の確保や、災害に備えた家族会議などができていないという意見がありました。また、避難所についても、避難所の運営やトイレの準備、水の確保など不安に思っていることや、常に防災マップを活用すること、町民全体の防災意識が低いといった意見も挙げられました。

防犯

- ・夜のタクシーが少ない（又はない）
- ・空き家が多い
- ・空き家
- ・空き地、空家の管理
- ・草が生えていて危ない
- ・高齢者の一人暮らしが多い
- ・偽電話詐欺→無言電話が多い→新たな特殊詐欺が増えているかもしれない（高齢者が増えるにつれて）
- ・近隣に関心がない
- ・町内でのコミュニケーションが取れていない（隣は何をする人ぞ）
- ・昼間人がいない

- ・道が暗いところがある
- ・街灯の明るさ
- ・暗いところもある
- ・町全体に外灯や防犯灯が少ない
- ・夜中の暴走族が多い→夜中の白バイ、パトカーなどの出動が少ない→交通事故がなくなる
- ・不審者が多い→サンリーアイ、いこいの里、情報プラザで利用者が不安に思って職員（役場等）に相談している
- ・学校教育のあり方、生涯学習への取り組みなどの教育環境の充実。以上の事務的な取り組みが必要

まとめ

防犯では、空家や空地が多いこと、街灯や防犯灯が少ないという意見が多く、生活する上で、普段から気になっていることが挙げられていたようです。また、バイクの音がうるさいことや、不審者が多いことも意見が出されました。これらは、学校教育のあり方や、生涯学習の取り組みにもつながるなどの意見が出されました。

生活

- ・マイナンバーカードは健康保険証だけの問題ではないのではないか
- ・マイナンバーカードについての町の取り組みについて
- ・保険証
- ・企業誘致がうまくできてないと思う
- ・海水浴場がしょぼい
- ・ゴミをカラスが荒らす
- ・ゴミ袋料金が高い
- ・買い物難民にならないか
- ・高齢者に段々日常生活が難しくなってきた
- ・交通の便が悪い
- ・JRの本数（海老津駅停車）が少なく不便
- ・車がなくなったら？
- ・高齢者に厳しい団地
- ・区の加入率が低い
- ・自治区から抜けていく人が出てきている
- ・自治区加入者が少なくなっている
- ・区内の年代差、団地ができたときからいる方々と最近引っ越してきた人が若く、どうやってまとめるか
- ・高陽－白谷線の遊歩道の草刈りについて、なかなかシルバーも忙しくて来てもらえない
- ・一斉清掃について、側溝の掃除をする必要がなくなりつつあるので、一斉清掃を別の形にできないか
- ・清掃活動に参加する人の高齢化
- ・古家の再利用が上手くできてきない

- ・駐車場がない
- ・路上駐車により救急車両が通れなく困る
- ・介護保険料軽減
- ・自治区ごとにに取り組むことに限界がある
- ・自治区のあり方が問われている時、今後生活弱者とどのように対応していくのか
- ・自治区の存続
- ・学校内の安全
- ・通学路の安全確保
- ・安全に遊べるスポーツする公園がない

まとめ

生活するうえで、身近に感じていることを参加者の皆さんが述べられました。マイナンバーカードの保険証の問題は報道されているだけに関心が高いようです。その他、ごみ袋料金が高い、介護保険料が高いなど生活に密着した切実な意見が出されました。また、交通の便が悪い、自治区の存続、学校内の安全などに不安を抱いています。

第2ラウンド：解消するにはどうすればよいか

防災

- ・避難所のお世話になることと、個人で備蓄も必要。
トイレ、水、食料。
- ・高倉区では、要支援者の把握、連絡、避難の確認を行っている。
- ・レクリエーションを兼ねた地域の人たちと町歩き
- ・地域全体で防災意識をあげるよう強くしていく、隣近所に関心を持つ
- ・地域の祭りの中で、防災訓練を取り入れる



まとめの発表

まとめ

自宅や避難所での備品の準備をすることをはじめ、地域全体で防災意識を高めていく必要があります。高倉区の事例が紹介され、要支援者の把握や連絡、避難の確認を行っているので参考にすべきとの声がありました。このように、防災訓練は自治区によって異なるため、各自治区に合った取り組みやすい方法で行うのも一つの手法と思われます。

防犯

- ・区長から町に対して町管理の街灯を増やす

働きかけをしていく

- ・明るくせず、街灯の本数を増やす
- ・組長→区長→町に要望を出す
- ・街灯を設置前に丁寧な説明と承知いただく
町全体に防犯灯を増やしてほしい
- ・防犯関係をでんたつくんで何回も知らせる
- ・交番発行の「防災ニュース」を回覧する
- ・空き家に対しての条例がある
- ・空き家の草刈りを役場を通して持ち主に刈ってもらう
- ・実際に行っている具体例を住民に知らせる
多くの住民が警察に連絡する
- ・警察パトロールの強化してもらう
- ・暴走族の対応
- ・地域コミュニティの強化
- ・近所の関わりが多いと防犯につながる
- ・廃車したパトカーを道路横に設置、抑止力になる（宮崎県、筑豊など）
- ・青パトが抑止力になっている。なのでもっと活用できたら・・・
- ・青パトの許可証を多くの団体が取得、活用する



まとめの発表

まとめ

防犯灯を増やすことが防犯強化につながるのので、町全体に防犯灯を増やしてほしい、警察によるパトロール強化や青パトのさらなる活用も大事などの意見が出されました。空家や空地があることを不安に感じる方もいるため、空家や空地の草刈りと併せて、防犯対策としてのご近所との関わりや地域コミュニティの強化も必要と考えられます。

生活

- ・免許返納者に継続的に補助
- ・地域の方で運転する
- ・区のメリットを伝える
- ・教育で教えていく
- ・声かけ
- ・役員の負担減
- ・公園の有効活用
- ・健康寿命を伸ばす
- ・塩分問題
- ・子ども会の活発化
- ・区長の役割
- ・イベントをすれば子どもたちが参加する
- ・就労支援
- ・プールは来年解決



まとめの発表

- ・防犯カメラ
 - ・学校のロッカーが古いまま、バッグは新しく大きく
 - ・歩車分離
-

ま
と
め

運転免許証を返納後の町からの継続的な補助を希望する声や、交通が不便なので地域の方で運転することも必要ではないかという声が出されました。また、自治区を存続させるために、子ども会を活発化させイベントを行うなど、子どもたちに参加してもらうことを提案する方もいました。さらに、学校施設の改善なども発言があり、皆さん子育て環境に高い関心を持っているようです。

アンケート結果

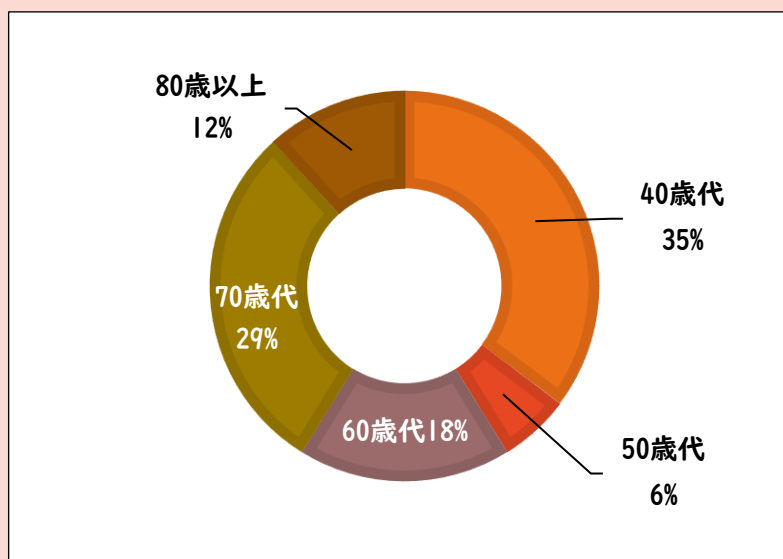
ご参加いただいた皆さんにアンケートを実施しました。結果は、次のとおりです。

質問 1 あなたのお住まいは？

お住まい	人数
旭中区	1
公園通り中区	1
高倉区	1
鍋田区	2
西高陽区	3
東松原区	1
松ヶ台西区	1
松ヶ台東区	3
緑ヶ丘区	1
南高陽区	1
百合ヶ丘区	1
吉木区	1

単位：人

質問 2 あなたの年齢は？



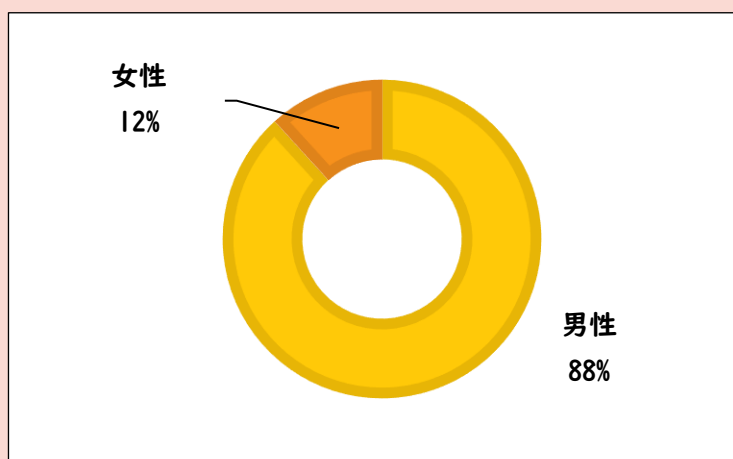
年代	人数
① 20 歳未満	0
② 20 歳代	0
③ 30 歳代	0
④ 40 歳代	6
⑤ 50 歳代	1
⑥ 60 歳代	3
⑦ 70 歳代	5
⑧ 80 歳以上	2
⑨ 無記入	0

単位：人

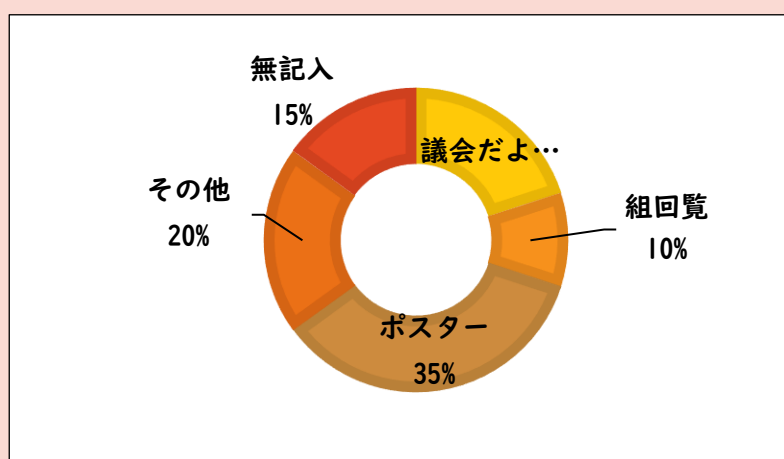
質問3 あなたの性別は？

性別	人数
①男	15
②女	2
③無記入	0

単位：人



質問4 何を見て参加されましたか？



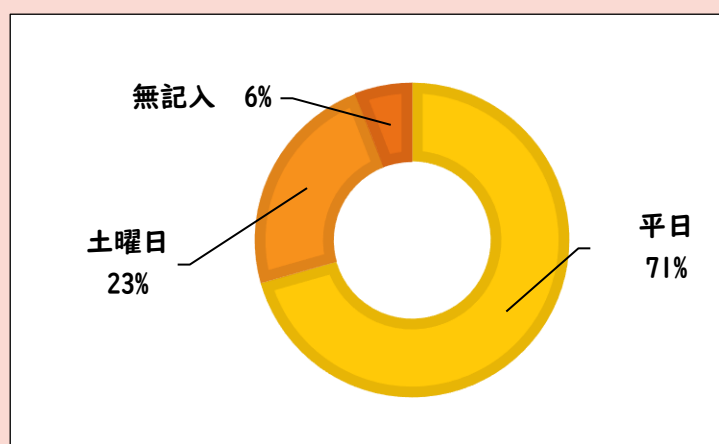
情報媒体	人数
①議会だよ	4
②組回覧	2
③ポスター	7
④その他	4
⑤無記入	3
※複数回答有	20

単位：人

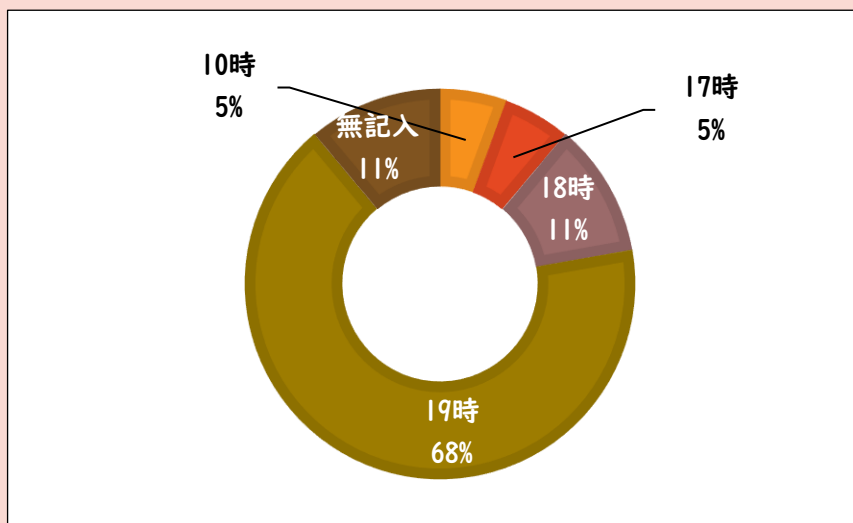
質問5 開催日の希望は？

曜日	人数
①平日	12
②土曜日	4
③日曜日	0
④無記入	1
※複数回答有	17

単位：人



質問 6 開催時間の希望は？



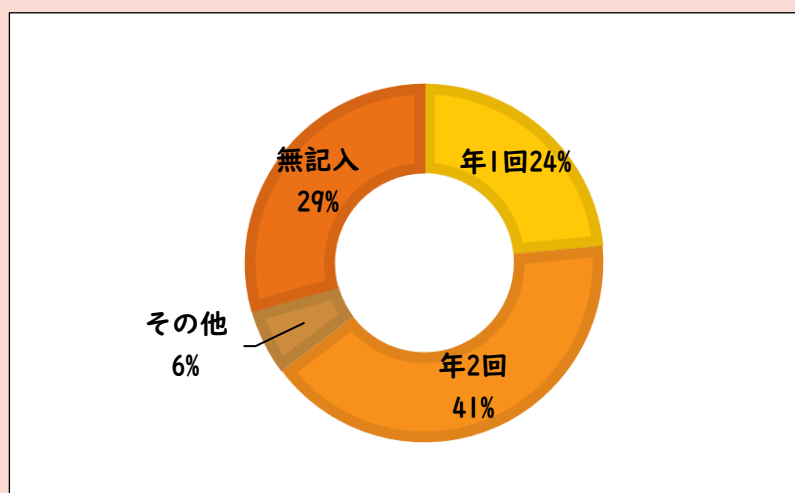
時間	人数
① 9 時	0
② 10 時	1
③ 13 時	0
④ 15 時	0
⑤ 17 時	1
⑥ 18 時	2
⑦ 19 時	12
⑧ その他	0
⑨ 無記入	2
※複数回答有	18

単位：人

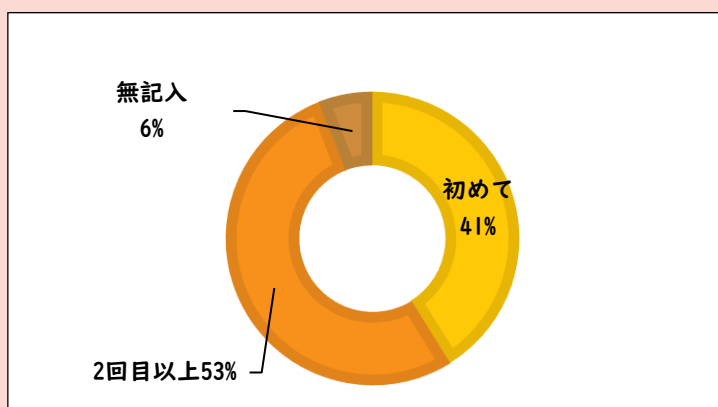
質問 7 開催回数の希望は？

開催回数	人数
① 年 1 回	4
② 年 2 回	7
③ その他	1
④ 無記入	5
※複数回答有	17

単位：人



質問 8 参加回数は何回目ですか？



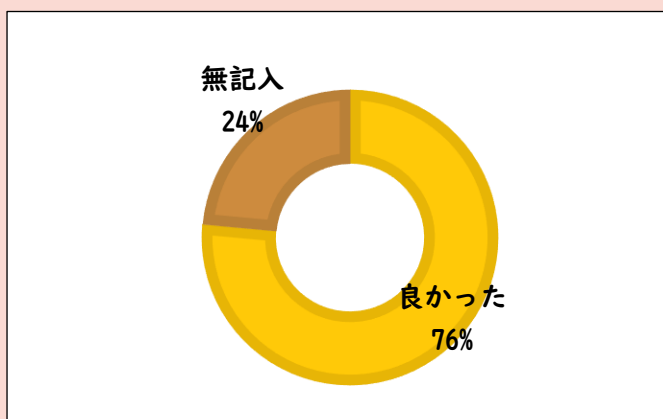
参加回数	人数
① 初めて	7
② 2 回目以上	9
③ 無記入	1
	17

単位：人

質問 9 今日の懇談会はどうでしたか？

懇談会は	人数
①良かった	13
②悪かった	0
③無記入	4
	17

単位：人



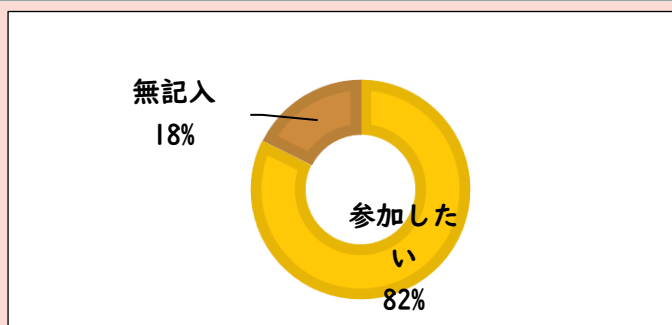
①良かった理由についてご記入ください

- ・日常生活の中にある大きな問題も小さな問題も解決の方向はなかなか見つからないが、互いを知ることができた
- ・防災意識の高い方のお話を聞きながら、もしもへの備えのために、家族・地域と話し合っておく必要があるかと思いました
- ・さまざまな地区のさまざまな事情が聞けたので
- ・いろんな意見交換ができ、今後に繋がるやるべきことが分かってきた
- ・他の人の生の声が聞けました。他の地域の取り組み、考え方を知ることができたと思う
- ・なかなか住民と議員さんとの意見交換ができる機会がないので、今後も年に3～4回くらいは開催して頂きたいと強く要望します
- ・議員さんたちと直接意見交換ができること
- ・議員と住民が意見や知恵を出し合い、町政に役に立つ課題がよく理解できた
- ・心の中にある意見が出せて楽しかった。同じ考え方もいることがよくわかった
- ・勉強になりました
- ・参加者が少なかった。PR 不足ではないか。町民の町政に対して意識が低い

②悪かった理由についてご記入ください

- ・記入なし

質問 10 また参加したいですか？



また参加したい	人数
①参加したい	14
②参加したくない	0
③無記入	3
	17

単位：人

①参加したい理由をご記入ください

- ・町政に対して関心を持っている
- ・区民の方の声を伝えられたので良かったです
- ・続けることに意味があるのでは
- ・住民の要望や課題について、議員に伝えることができる
- ・町政に直接参加できること
- ・なかなかこういう機会がないので、今後なるべく参加したい
- ・いろんな人と知り合いになれる。他の地域の状況がわかる
- ・1回では意見がまとまりきれなかったので、その継続版で続けたい
- ・いろんな方のお話を聞けるので
- ・今回初めてで入口に立っただけなので、今後

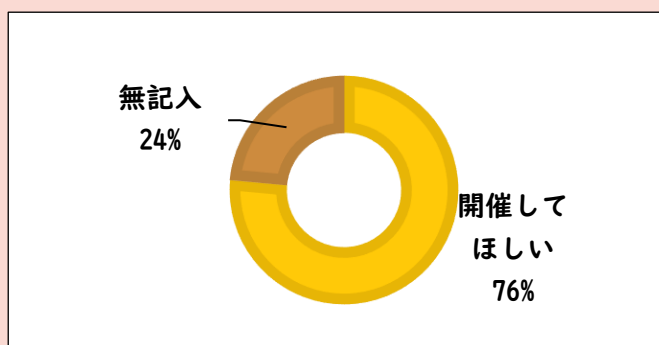
②参加したくない理由をご記入ください

- ・記入なし

質問Ⅱ 住民懇談会を今後も開催してほしいですか

今後の開催	人数
①開催してほしい	13
②開催しなくてよい	0
③無記入	4
	17

単位：人



①また開催してほしい理由についてご記入ください

- ・議員との意見交換が必要である
- ・少しずつでも問題がみえてくると思います
- ・町議会議員全員が参加して、住民の要望を聞くことができる
- ・町内のさまざまな問題が理解できる。町民としてとても勉強になる
- ・なかなかこういう機会がないので、今後なるべく参加したい
- ・参加して楽しいので
- ・コミュニケーションを取る場になるので
- ・議会で話し合っていることをアピールしてもらいたい
- ・議員さんは、町組織を動かす力を持ってるので、できるだけ行政と住民と議員でコミュニケーションを保っていきたい

②開催しなくてよい理由についてご記入ください

- ・記入なし

質問 12 その他、何かお気づきの点があればご記入ください

- ・参加者が少ない
- ・参加者が多くなると、話しをまとめるのが大変になるのでは
- ・自治区により温度差があるので、意見を吸い上げてもらいたい
- ・なかなかこの楽しさが伝えられないのがじれったい。区民の町にはそれなりに意見を持っている人はたくさんあるはず
- ・もう少し多くの方が参加してもらえるように、この会を PR してほしい
- ・今回は参加人数が少ないので、次回はたくさんの方に参加していただけるように、もっと町民の人達に PR してください
- ・PR が少なかったのか、参加者が少ないので残念でした。全域放送は無理なのでしょうか。(放送していたらごめんなさい)
- ・議員と住民+町担当参加でもいいのでは
- ・最後の発表が長すぎて要点がわからない
- ・発表が長い。(1人3分程度)

「議員と語ろう」を開催してのまとめ・総括

まとめ

昨年度と同じ形式で「議員と語ろう」を行いました。しかし、参加者が17人であったため、急遽テーブル数を6テーブルから4テーブル（防災1、防犯1、生活2）に変更しました。防災テーブルは3人、防犯テーブルは4人、生活テーブルは5人×2テーブルに分けて意見交換を行いました。参加者は少ないものの、発言する時間が保たれたのではないかと考えます。

今年度は、参加者全員がアンケートに回答されました。参加者の内訳は、男性88%、女性12%と昨年同様に男性の比率が高くなりました。年齢は、30歳代以下の参加がなく、40歳代が6人と最多で、次に70歳代の5人、60歳代3人、80歳代2人、50歳代1人という結果でした。

しかし、今回初めて参加された方が41%、2回目以上という方が53%で、初めての参加者が意外に多かったというのが特徴的です。

「議員と語ろう」に参加しての感想については、「良かった」が76%で、「無記入」が24%で、「悪かった」と回答した方はいませんでした。「また参加したい」という方は82%、「無記入」が18%で、「参加したくない」と回答した方はいませんでした。

参加者の感想では、「お互いを知る事ができた」や「議員さんたちと直接意見交換ができた」、「なかなかこういう機会がないので、今後もなるべく参加したい」など、今回実施したようなワークショップ方式の希望と受け取れる意見が多かったように思えます。

自由記述欄では「参加者が少ない」、「もう少し多くの方が参加してもらえるように、この会をPRしてほしい」と、もっと多くの住民が参加できるよう取り組んでほしいという要望がありました。また、「最後の発表が長すぎて要点がわからない」など、発表時間についての意見が寄せられました。「議員と語ろう」が全体的に、町民の皆さまから期待されているということが鮮明になりました。

総括

参加者が昨年度と比較して少なかった理由については、日中が暑すぎることで、外出を控えた方もいらっしゃるのかもしれませんが。来年度は10月頃の開催が好ましいのではないかと委員会では考えています。

また、「安全なまちづくりについて」というテーマを設け、防災・防犯・生活と3つの分野に分けたことで、テーマが大きすぎたことも参加者が少なくなった要因かもしれません。来年度はテーマについても委員会で議論して、参加が増えるようなテーマに改善していきます。

参加者には受付時に防災・防犯・生活のどの分野を希望するかを伺い、希望するテーブルへと案内をしましたが、生活を希望する方が多いことに驚きました。それだけ、身近な問題などを抱えているのだと思います。

参加者は１７人と少なかったものの、人数が少ない分、より深い議論ができたのではないかと思います。これまで７０歳代の参加者が一番多かったのですが、初めて４０歳代が多く参加しました。これは、議員が個別に声かけを行ったという点が大きかったと思います。今後は、もっと若い人や女性の参加者を増やしたいと思いますが、曜日や時間帯を変更する必要もありますので、慎重に協議してまいります。

これまで、「議員と語ろう」を開催する中で、住民の皆さんから多くの要望をいただいています。中には、実現したものもあるという意見もありますので、今後は「議会だよりおかがき」を通じて、住民要求が実現した意見についても取り扱っていく予定です。

今回の「議員と語ろう」でいただいたご意見・ご要望等は、本報告書に記載していますので、議会を代表して森山浩二議長から門司晋町長へお渡しし、報告します。町民の生の声が反映されるように期待します。

また、議会広報常任委員会では、来年度の「議員と語ろう」に向けて反省点を生かせるように協議し、先進地の視察等も踏まえて、委員会の中でさらに調査・研究を行ってまいります。

